生命科学部　学生さんの留学体験談

バイオサイエンス学科　M2　MO さん

私の留学体験記：オランダで学んだ sustainability

＜海外留学を決意するまで＞

私は高校の時にアメリカ、イギリスへ 1 ヶ月間、語学留学した経験があり、1 ヶ月では足りないと感じ、大学入学当初から**長期留学**がしたいと考えていました。もともと、大学 4 年時にオランダに長期留学をする予定でしたが、コロナのため派遣が中止になってしまい、大学院に進学することを決意しました。**オランダ**を留学先に選んだ理由としては、もともと**美術**に興味があったためヨーロッパの絵画を間近で見たいと思ったからです。さらに、オランダの大学は**農学の分野で高い評価**を受けており、自分の専攻をより深く学べると考えました。

＜留学に必要な英語試験＞

交換留学生としてオランダへ行くためには、**TOEFL ibt テストで 80 点以上**(speaking 20 点以上)が必要条件でしたが、学部 3 年次で 60 点代しか取得できていなかったため、夏休みに短期間、**塾**へ通うことでスコアを伸ばしました。TOEFL を勉強する上で、**writing** と **speaking** は自分で採点することが難しく、**第三者に確認してもらう**ことが必須だと思います。私が通った塾では、授業は全て英語で行われていました。先生が頻繁に質問を投げかけるので、何かしらのアイディアがあれば、必ず手をあげて答えるよう心掛けました。他にも生徒が複数いましたが、発言することで先生からのコメントをもらえたため、自分でも答え合わせができました。

＜オランダの大学での生活＞

私が行っていた大学は Wageningen という小さな市にある Wageningen University で、ヨーロッパの中でトップに入るレベルの高い農業大学です。学部生はオランダ人が多いですが、大学院生は国際色豊かでした。大学全体の学生が 13,190 人在籍しているうち、その 28%が海外からの学生でした。ヨーロッパ系だとドイツ、イタリア、スペインの学生が多く、アジア圏からはインドネシア、中国出身の学生が多く見られました。

Wageningen University

―授業編―

現地では、大学院、学部のコースから自分の興味のある**単位交換可能なコース**を取りました。私自身のバックグラウンドは biotechnology ですが、それだけでなく日本では受講したことのない food technology、sustainable food system（持続可能な食料の生産及び流通システム）についての授業を履修しました。オランダは小さな国ですが農作物の輸出が世界第 2 位として知られています。そんなオランダの **food system** に関する授業は新しい学びが多くありました。

留学中に直面した一番の**壁**は授業中でのグループワークにおいて自信を持って自分の意見を発することができず、**発言することを恐れる**ようになったことでした。専門的な授業内容を全て英語で理解することが厳しかった上に、少人数のグループに分かれて課題を行う授業がほとんどでした。グループ課題を行う際には理解できないことがある度にメンバーに質問することで簡単な英語を使って教えてもらいました。この経験から、発言を恐れて何も話さないのではなく、自分がどこまでわかっていて何がわからないかを明確にすることで周りが何を助けられるかを考えてくれるのだと実感しました。

積極的な発言を心がけることで、だんだんとメンバーとの議論が可能になり、課題を共に進めていくことができるようになりました。例えば、sustainable food system の授業中に新しく出てきた単語“embeddedness”とはどのようなものか、授業の最後にメンバーがそれぞれの解釈の仕方を説明し合うことで、理解を深めたり、質問が生まれた際は先生に質問したりすることができました。そのグループワークで出会い、親友になった友達も数人います。

―生活編―

オランダでは、1 フロアに 8 人住むことができる学生寮に住んでいました。自分の部屋以外は全て共有していたため、日々の生活の中でルームメイトと話す機会が多くありました。ルームメイトは、ギリシャ、オランダ、インドネシア、ドイツからの学生で寮内も国際色豊かでした。1 年間オランダで生活し、気づいたことは多くありますが、その中でも印象に残ったのは、**エコな暮らし**への心がけを徹底することです。“Simple is the best.”というフレーズがぴったりではないかと思います。

住んでいた学生寮

例えば、学生の多くが昼食を買わずに持参するのですが、その際使い捨ての弁当箱やラップを使う人は少なく、大体お弁当箱に詰めてフォークやスプーンも持参します。日本にいる時は、お弁当はだいたいおにぎりをラップに包んで持参することが多かったため、日々いかに多くのゴミを排出していたのか気付かされました。とはいえ、食に興味のないオランダ人はピーナッツバターと食パンで作ったサンドイッチを昼食にしており、私も一度は挑戦しましたが、あまりにも質素で昼食には向いていないと感じました。

また potluck という、個人それぞれが料理を作り持ち寄る機会が多くあり、その際も紙皿ではなく**陶器のお皿**を使うなどして楽しんでいました。最後に全員でお皿を洗って棚に戻すまでも友達と共に話をしながら楽しむことができたため、片付けを面倒に感じることがありませんでした。

＜留学を終えて＞

留学を終えて、学問分野についての**知識が広がった**と感じます。特に biotechnology の授業で学んだタンパク質構造予測ツールの使い方を帰国してから自身の研究に活かすことができました。また、**よりエコな暮らし方**を目指すようになったことも大きな変化だと思います。普段の生活でいかに多くのプラスチックを使っていたか、使い捨てのものを使っていたかを痛感し、シンプルな生活を目指していま

す。これは sustainability の授業で学んだことや、オランダで身近に見た周りの人たちの暮らしぶりに影響されたことが大きいと思います。

私は、4 月から外資メーカーでの就職が決まっており、**supply chain を最適化**するための仕事を行う予定です。Supply chain においても、シンプルかつ効率的なものに調整することを目標に働いていきたいと意気込んでいます。

＜まとめ＞

最後に、**留学を通して得られる学び**は、学業面、生活面において計り知れません。実際に現地へ足を運び、異なる国の学生たちと学び、生活することは、日本において実現し難いことだと感じます。そして何より世界を知ることで、新しい価値観に出会うことができ、それによって大きく自己成長することができると確信しています。ぜひ**農大の交換留学プログラム**を活用して留学に行ってみてはどうでしょうか。想像を超える学びや出会いが待っていると思います。